

学習障がいのある子どもの理解：補助資料①

☆学習障がいの主な特性に即した指導方法①

「教育支援資料」では、学習障がいの主な特性に即した指導方法として、12の指導がありますので、ここでは、①～⑥を紹介します。実際に在籍する児童生徒をイメージしながら、確認してみましょう。



①指示を理解するための指導

***指導の前に確認したいこと…指示が理解できない要因を考える**

- 注意が集中できないのか 聞いただけでは理解できないのか 等

【指導方法】

- 視覚的な補助 復唱 聴写 等

指導方法を組み合わせ、指示を理解する能力の改善を図る。

②筋道を立てて話すための指導

***指導の前に確認したいこと…伝えたいことを相手にうまく伝えられない要因を考える。**

【指導方法】

- 絵を見て話す
「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どうする」 等

指導を行いながら、話す指導を行う。

③文字や文章を音読する能力を高めるための指導

***指導の前に確認したいこと…音読が苦手な要因を考える**

- 聴覚的処理（文字を音声等に変換すること）に困難があるのか
視覚的処理（視覚的な情報をとらえること）に困難があるのか

【指導方法】

<聴覚的処理に困難がある場合>

- 「がっこう」を「○○○○」をとらえられるようにするなど、音を視覚的にとらえる指導
支援機器を使って音声教材を繰り返し聞く

【指導方法】 *③の続きとして

<視覚的処理に困難がある場合>

- 文字単位ではなく、そのまとまりである単語全体としてとらえられるようにする指導
- 文字を拡大 行間を広げたりすることができるような教材

④文字や文章を読み理解する能力を高めるための指導

***指導の前に確認したいこと…つまずきのレベルや要因を考える**

- 文章の内容を把握できているか
- 文章中の指示語の理解ができているか
- 説明文と物語文のどちらの読解が苦手か 等

【指導方法】

- 文章や段落ごとの関係を図示する
- 重要な箇所印をつける 等

読解のための手段を身に付けられるようにする。

⑤文字を正確に書く能力を高めるための指導

***指導の前に確認したいこと…つまずきのパターンを考える**

- 適切な文字を思い出すことができないか
- 細かい部分を書き間違えるのか
- 同じ音の漢字や形が似ているアルファベットと間違えるのか 等

【指導方法】

- 漢字の成り立ちなどの付加的情報を指導し、意味づけを行う
- 文章や文字をなぞって書くこと 等

指導方法を組み合わせる。

⑥作文を書く能力を高めるための指導

***指導の前に確認したいこと…作文を書くことにつまずく要因を考える**

【指導方法】

- 作文を書く際の視点を養うための推こう課題に取り組む
- 「いつ」「どこで」「誰が」「何をして」「どう思ったか」などの質問形式から取り組み始める 等

工夫をしながら指導を行う。